

## 新法人化に向かって



新公益法人制度化に伴い、当協会は平成22年9月に一般社団法人に移行することを決定し、平成23年1月に『新法人移行準備委員会』を組織するとともに、平成23年度中に新法人を設立することが決定された。

平成24年4月1日の登記・設立を目指して内部協議を重ねてきたが、平成23年10月24日開催の臨時総会で以下の内容が承認された。なお、臨時総会出席者は会員57社中、出席29社、委任状出席21社であった。

1. 新法人の定款
2. 新法人役員の決定—理事20名
3. 公益目的財産額の算定
4. 公益目的支出計画の作成
  - (1) 緑化推進事業
  - (2) 造園技術向上事業
  - (3) 社会貢献事業
5. 公益目的支出計画の実施期間
6. 就業規則の制定
7. 会費徴収規程等各種規程の制定
8. 新法人申請スケジュール

また、定款第23条では、理事15人以上20人以内、監事4人と定められている。理事のうち1人を会長、副会長3人以内、監事4人となっており、専務理事は業務執行理事とすると規定されている。

なお、新法人設立時に就任する会長、副会長、専務理事は11月1日に開催された理事会で互選により決定された。

今後は、群馬県公益認定等審議会の議を経て群馬県知事の認可を受けた後、新法人の登記申請を行うこととなります。(赤城グリーン㈱・荻原 武一)

## 群馬県都市緑化祭 ふるさとキラキラフェスティバル 花と緑のぐんまづくり 2011 in 渋川

今年のふるキらは、7月30日～9月4日に群馬デスティネーションキャンペーンに合わせて伊香保温泉石段を花で飾る、「伊香保DC花ステージ」と、9月17日～10月23日に渋川中心街でたくさんの飾花と様々なイベントを行

う「花と食のまちなか会場」の2会場、2期に分けて行われました。

「伊香保DC花ステージ」では名物の石段を飾花し、温泉を訪れた人々に新たな魅力を発信できました。

また、「花と食のまちなか会場」は当初、春に行われる予定でしたが、東日本大震災の影響で開催時期が変更になったり、開催直前の台風で準備が遅れるなど、不安要素もありましたが、無事盛況のうちに終了しました。渋川市内の造園各社も庭園出展し、市民の皆様から自社の技術をアピールする場となりました。

これを機に渋川市内の緑化推進活動を盛り上げ、造園業の発展に尽力していければと思います。

(飯塚緑地㈱・飯塚 勝)



## ホリデーイン前橋



8月21日(日)、「第37回ホリデーインまえばし」に参加しました。昨年同様敷島公園での開催となった今回は、「がんばろう日本」をテーマとし、募金活動などを取り入れた充実したイベントとなりました。

青年部の活動内容としては、定期的にかかるホリデー会議への出席、会場の準備・撤収作業の参加を精力的に行い、当日の担当ブースでは、例年同様「竹を使ったおもちゃ作り」と題し、「ブンブンごま・起き上がりこぼし」をそれぞれ企画準備して、ものづくりを体験しながら遊び、学べる場を提供しました。

これからも参加団体として、実行委員会に積極的に加わり、イベント成功に大きく貢献していくことで、着実に群造協の存在をPRしていきます。今後もさらなる努力をしていきたいと思っています。

(㈲青木造園・青木 慎二)



## 関東四県 公園緑地連絡協議会 及び視察報告



担当県である栃木県造園建設業協会の設営で、茨城県、埼玉県、群馬県、各造園建設業協会の参加で平成23年10月12日(水)、宇都宮グランドホテルにて開催され本県から、清水会長、須永副会長、石橋専務理事、小池事務局長、事例発表者として茂木の5名が参加しました。

協議会に先立ち平成12年開催された第17回全国都市緑化とちぎフェアの会場になった「とちぎわんぱく公園」を公園管理事務所柳田所長の案内で視察を行いました。

協議会は栃木県造協高梨会長の開催県挨拶に始まり出席者紹介の後栃木県造協高梨会長を議長に選出し、事例発表・情報交換へと協議会が進められた。事例発表は、群馬県・都市部(街中)の緑化が周辺の微気象に及ぼす効果と題し23年度、24年度の2ヵ年群馬県造園団体協議会で調査研究している街中緑化推進に関する事例を中間報告という形で発表した。続いて栃木県が防草緑化挿し芽植栽工法について、道路の中央分離帯や路肩などのコンクリート部に直径10cmの穴を開けマツバギクなどを挿し芽して緑化した事例を発表した。茨城県は日造協茨城県支部で行った真鍋のソメイヨシノ(茨城県天然記念物指定)の樹勢回復の保全処置と共に行った植栽基盤診断を事例報告し、埼玉県がより良い植栽基盤の確保について、街路植栽時に重粘土質層、残土盛り土、大型重機による踏み固められた場所での植栽基盤整備による植栽の事例を発表して四県の発表を閉じ情報交換に移った。情報交換では3月11日に起こった東日本大震災や、原発事故などの被害状況や対応、今後の取り組みなどが話し合われた。つづいて栃木県造園建設



業協会の顧問である藤岡義三氏が造園協会、造園業者の今までの取り組み、今後の取り組み方について、大所高所からの所見を述べられ次回開催県の茨城県の挨拶で協議会を閉会した。

長時間に亘る視察、協議会であったが時間の長さも疲れも感じられない内容のある協議会でありました。

(有)双葉造園・茂木 一彦)



協議会会場



園内を走るわんぱくトレイン

## 関東甲信造園建設業協会 協議会

平成23年10月21日(金)、つくば市オークラフロンティアつくばにて、東京・埼玉・神奈川・千葉・茨城・栃木・群馬・長野・山梨の各県の造園協会員による協議会が開催されました。

国立科学博物館・筑波実験植物園を見学した後、各県から提出された議題の中から、東日本大震災に関連し、「造園関係についての情報、現状、対応課題について」(東京都)「災害協定の締結について」(神奈川県)「福島第一原発によるセシウム汚染に関する情報の共有化について」(茨城県)を中心に協議され、実際の被災状況の報告もあり、例年にも増し真剣で活発な情報交換が行われました。

次に、法人化・業界の方向性・資格制度・入札制度等についての議題についてさらに具体的に協議が進められ、各県とも同様な課題を抱えつつ協会活動を行っている事からも、さらに地域を広げ全国的な交流を目指し、技術の継承や造園業のさらなる質の向上のた

め働きかける事を今後の共通課題として活動する旨確認されました。

引き続き行われた懇親会では、つくば市の副市長様もご出席いただき、充実した懇談が行われ有意義な協議会となりました。

今回は開通した北関東自動車道で、つくば市に向かいましたが、2時間30分足らずで会場に到着でき、茨城県が大変近くなったと実感致しました。

(群馬緑化株・岡田 友子)

## みどりの清掃



秋晴れの10月29日(土)、恒例のみどりの清掃が前橋市にて開催されました。このボランティア活動は、毎回『花と緑のぐんまづくり』の来年度開催予定地にて実施しています。今回の作業は前橋公園から県庁・市役所周辺約2kmの道路清掃・除草と、前橋公園内のカシゲネ剪定。協会員やその家族総勢約60名が参加し、家族一丸となって取り組む地域貢献や、我が協会の特性を活かした環境整備等、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

また同日には敷島公園にて敷島公園まつりが開催されており、こちらの会場では『花と緑のぐんまづくり』開催告知チラシを市民に配布し、精力的なPR活動も行いました。

チラシの作成やごみ・剪定枝の処分には行政のご協力を得ることができました。ご協力大変ありがとうございました。(株)小泉農園・小泉 雄作)



## 第10回 造園技能講習会



造園技能士講習会を、前橋職業訓練

校で行いました。造園技能士試験は今年から2級で変更があり試験時間30分短縮されました。1級造園技能士は試験の内容は変わらず3時間で試験を行う大変体力と技術力の必要な試験、造園業に携わるものとして重要な資格と思います。学科・実技・要素の3部門に知識と体力と感性を備えていないと合格できません。今回は、1級5人2級7人の受講生が小雨降る中たっぷり汗をかきながら練習しました。尚、講師・青年部・技術委員会の皆さんには、ご協力大変ありがとうございました。

(株)高橋造園土木・高橋 副二)



## 勢多農インターンシップ について



群馬県立勢多農林高等学校より、インターンシップ(職業体験)の受入要請が当協会へあり、前橋市内の協会員にて受入れを行いました。

10月18日~20日の3日間、勢多農緑地土木科緑地デザインコースの生徒達、20名を10社にて受入れました。生徒達は、学校で学んだ事が実際の現場で生かせる機会ということで、大変積極的に取り組んで頂きました。

これからの造園業界を担っていく若い人達との共同作業は、我々にとっても大変刺激的で、逆に勉強させて頂いた事も多々ありました。

今後も、インターンシップの受入れを通じて、高校生などの若い人達へ、造園業界のPRが出来れば良いと思います。(株)中村造園・中村 一博)





視察研修報告



全国都市緑化フェア視察研修

今年度は、『第28回全国都市緑化かごしまフェア』『花かごしま2011』の視察研修を体験致しました。清水会長をはじめ、日造協の山田群馬支部長他の方々の参加を頂き、学び多き研修となりました。メイン会場の吉野公園は、桜島ブロムナードを中心に、色鮮やかな花々と又奥の方には、大斜面を利用した、南国ならではの花や緑を活用した世界が広がり、圧巻でした。展望台からは錦江湾の先に、桜島の雄大な姿を望めます。桜島を築山に、錦江湾を池に見立てた借景庭園は、威風堂々とした薩摩の大自然を体感できました。

また、知覧の武家屋敷群の各庭園では、武家薩摩らしく、見る者の心を捉える趣を呈しておりました。他に、篤姫縁の島津家仙巖園や、特攻平和会館等を見学致しました。

帰途の空港近くで山田支部長の紹介にて広大な樹木農場も視察できました事、この場をお借りして感謝申し上げます。充実した研修旅行となりました。

(櫻造園株・桜井 幹男)

(社)群馬県造園建設業協会青年部

長崎研修旅行報告

青年部有志のメンバーにて10月23・24日の2日間、ガーデニングワールドカップ・フラワーショー IN 長崎2011を視察するためハウステンボスに行ってみりました。世界のトップガーデナー16組がガーデンアートを舞台に平和への思いを込めたメッセージを花と緑に託してその技が競われました。最優秀作品に輝いたのはジム・

フォガッティ氏(豪)の「ブッシュファイヤー」でしたが、日本のガーデナーも日本人らしさあふれる作品で大健闘したとおもいます。何れの作品も立場や状況により甲乙つけがたいものと感じましたが、世界との距離が更に身近に感じられる時代において、次代を担う我々青年が目指すべきガーデンの価値と普及を考えるうえでは非常に有意義な研修でありました。

(前橋園芸株・中村 敬太郎)

参照HP

<http://www.gardeningworldcup.jp/outline.html>



平成23年表彰

■ 9月29日(木)

全国建設産業団体連合会表彰  
株式会社しみづ農園  
代表取締役会長

清水 一也

■ 11月10日(木)

群馬県功労者表彰  
株式会社しみづ農園  
代表取締役会長

清水 一也

■ 11月15日(火)

卓越した技能者表彰  
熊倉造園土木株式会社  
代表取締役

熊倉 弘

■ 11月22日(火)

群馬県優秀技能者表彰  
丸桑造園株式会社  
代表取締役

大澤 松男

去る、平成23年11月15日、当協会会員である熊倉造園土木(株) 代表取締役 熊倉弘氏が平成23年度の「現代の名工」に選ばれました。熊倉氏は、千葉大学 園芸学部で植物に対する学を高め、在学中に実習先である京都の名庭に感動を覚えたそうです。以来、弛まぬ努力で今なお、造園技術の取得に励んでいます。

熊倉弘氏は、古文書を調査・研究し、それを基に現代的に造作した「竹材工作物」として庭園美の追求に努めています。作庭作品は、各地で高い評価を受け数々の賞を受賞し、国内はもとより海外からも注目され、オーストラリアからも作庭の要請があり、日本庭園の魅力の世界に発信しています。卓越した技能の証明として、平成20年3月に群馬県で開催された全国都市緑化祭において作庭コンテストが行われ、参加数85作品の中から総合部門で金賞、優秀賞を受賞しました。さらに、平成21年5月群馬大学工学部の「自然素材による竹材利用」に街中出展し、創作竹垣に関係者や市民に高い評価を受けました。江戸時代からの技法を30数年かけて復元も致しました。

また、樹木の保護に以前から取組み、巨木古木の治療にも貢献しています。樹木の治療は、樹木医制度以前より積極的に携わり制度発足後、平成5年に、樹木医資格取得後は、これまで手が出せなかった天然記念物指定の樹木などの治療に取り組み、経験と知識を十分に生かしながら成果を上げています。現在は、樹木医療分野で極めて難し

祝  
当協会員の熊倉弘氏  
現代の名工  
受賞



いとされている材質腐朽菌病の防除について研究し、立生木を枯らすベッコウダケ病への防除が90%以上の効果を表す治療法を確立したことを(社)日本樹木医会に公開したことで高い評価も頂いています。そして、この高い技術と知識を生かしながら、大学や関係機関と協力し、調査・研究をすることにより、樹木医療・庭園技術の発展に貢献しています。さらには、長年にわたり緑化講座や職業訓練校の講師を務め、緑化に対する市民意識の向上や造園技術の普及に努めています。その指導の際は、必ず実物を見せながら説明するので理解しやすく、優しい口調も重なり、多くの方から信頼を得ています。

最後に、特筆すべきはツツジに対する知識と愛情でしょう。今まで、分類の難しかったツツジの種類・品種・系統を整理し、その中でも、江戸キリシマについては、随一の研究者であります。東京大学教授の山崎敬博士との共同執筆で発表した著書「日本の園芸ツツジ」、「ツツジその種類と栽培」では、その知識を十分に伝えています。

このように、素晴らしい知識と経験を持ち、なおかつ徳溢れる人物である熊倉 弘氏が、この度は、はれて榮譽ある賞を受賞したことは、(社)群馬県造園建設業協会にとっても大変喜ばしい出来事であり、会員への励みとなるに違いありません。熊倉弘氏の更なるご活躍をご祈念申し上げます。

(株)新栄造園・石川 吉治